



エッセイ

大変革の時代



山本 誠一郎

アライアンス・バーンスタイン株式会社
代表取締役社長



2016年1月12日



2016年は、当社にとって日本拠点開設30周年の節目の年に当たる。日本における外資系資産運用会社の中でも最古参の一角である。改めて、ここまで支えていただいた顧客の皆様、諸先輩方、関係者の方々へ深い感謝の意を表したい。

さて、今まさにグローバルで大変革の時代を迎えている。まずは自問自答してみたい。

1. 世界で最大のタクシー会社はどこか？
2. 世界で最大のホテルチェーンはどこか？
3. 世界で最大のメディア会社はどこか？

答えは、伝統的な会社ではなく、1から順に、ウーバーテクノロジーズ(Uber)、エアビーアンドビー(Airbnb)、Facebookである*。

3社に共通していることがいくつかある。

第一に、「所有」していない。Uberはタクシーを一台も所有しておらず、Airbnbはホテルを一棟も所有していない。Facebookはみずからコンテンツを作成していない。

第二に、供給者とユーザーをつなぐ場(プラットフォーム)を提供している。

第三に、ユーザーからの評価システムを導入している。Uberであれば、星の数(満点は5)、Airbnbも同じく星の

数とコメント、Facebookであれば、「いいね！」ボタンである。

第四に、ユーザー同士の利用「体験」を共有している。

最後に、いずれも新興企業であり、この5-10年の間にビジネスを開始した。そして、さらに付け加えるならば、いずれも米国西海岸に本社がある。奇しくも、こうした大変革の種は米国のサンフランシスコなどの湾岸エリアやシリコンバレー中心にまかれていた。

ここで一つのエピソードをご紹介させていただきたい。先日、ニューヨークに出張した際、JFK空港から市内のホテルまでの交通手段として、スマートフォンを使ってUberで車を手配した。空港近くを走っていたUber車が予定通り10分で到着。車が到着するまでの間、あと何分で到着するかというメッセージが日本語できめ細かく伝えられた。Uberはタクシーとは異なり、評価システムが導入されているがゆえ、顧客へのサービスを重視しており、ドライバーは道中よく話しかけてくれる。話をうかがうと、彼は元ハイヤーの専属ドライバーで、Uberが急速に普及したことによって、現職のハイヤードライバーは仕事を失い、次々とUber登録をしているという。

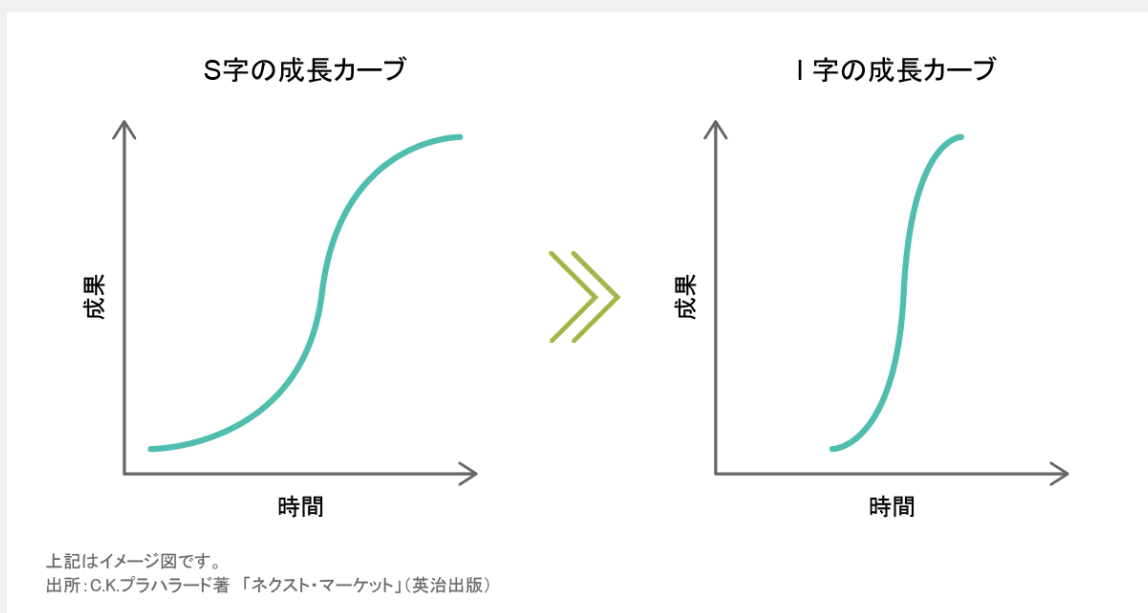
ニューヨークの同僚と市内で会食すると、多くは帰り際にスマートフォンを取り出しUberを手配する。会食シーンでは、今やUber車が到着することがお開きの合図になっている。ニューヨーク市内ではハリウッド映画で登場

当資料は、2016年1月5日現在の情報を基にアライアンス・バーンスタイン株式会社が作成した資料であり、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。当資料は信用できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また当資料の記載内容、データ等は今後予告なしに変更することがあります。上記の個別の銘柄・企業については、あくまで説明のための例示であり、いかなる個別銘柄の売買等を推奨するものではありません。アライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)はアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社はABの日本拠点です。

するような手を挙げてタクシーを探す光景は徐々に少なくなっているようにも思える。

UberやAirbnbなどの米国発のシェアリング・エコノミー（ソーシャルメディアを通じた情報交換によってモノやお金、サービス等の交換・共有を行う経済の仕組み）は僅かこの2-3年間で急速に世界中に広まってきている。経済がグローバル化し、フラット化する世界では、成長カーブがS字からI字になってきていると言われている。中国やインドなどの新興国では、固定電話を飛ばしていきなりスマートフォンが普及したり、カセットテープ

やCDを飛ばしていきなり音楽ダウンロードが普及したりしている。元来、このI字カーブ化現象は、新興国の成長スピードのすさまじさを端的に表すものとされていたが、この数年の間にいつの間にか先進国でも起こってきている。IoTに代表されるように個人がインターネット、スマートフォン、センサーを駆使し、あっという間に人と人、人とモノ、モノとモノがつながる時代。まさにデジタルを経由した新たな「エコシステムの構築」がなされる大変革の時代に突入したと言ってもよいのではないだろうか。



こうした大変革の時代、何がどう変わり、われわれはどうすべきなのか。特にフィンテックに代表される金融業界における変革について、ABの取組みも合わせ、「知の広場」を通じて順次ご紹介していきたい。

*UberおよびFacebookは時価総額ベース(2015年5月末現在)、Airbnbは部屋数ベース(2015年11月現在)で算出。

アライアンス・バーンスタイン株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会

<http://www.alliancebernstein.co.jp>

当資料についての重要情報

当資料は、投資判断のご参考となる情報提供を目的としており勧誘を目的としたものではありません。特定投資信託の取得をご希望の場合には、販売会社において投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、必ず詳細をご確認のうえ、投資に関する最終決定はご自身で判断なさるようお願いいたします。以下の内容は、投資信託をお申込みされる際に、投資家の皆様に、ご確認いただきたい事項としてお知らせするものです。

＋ 投資信託のリスクについて

アライアンス・バーンスタイン株式会社の設定・運用する投資信託は、株式・債券等の値動きのある金融商品等に投資します(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)ので、基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。投資信託の運用による損益は、全て投資者の皆様に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。リスクの要因については、各投資信託が投資する金融商品等により異なりますので、お申込みにあたっては、各投資信託の投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等をご覧ください。

＋ お客様にご負担いただく費用:投資信託のご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります

- ＋ 申込時に直接ご負担いただく費用…申込手数料 上限3.24%(税抜3.00%)です。
- ＋ 換金時に直接ご負担いただく費用…信託財産留保金 上限0.5%です。
- ＋ 保有期間に間接的にご負担いただく費用…信託報酬 上限2.0304%(税抜1.8800%)です。

その他費用…上記以外に保有期間に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書(交付目論見書)、契約締結前交付書面等でご確認ください。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アライアンス・バーンスタイン株式会社が運用する全ての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

ご注意

アライアンス・バーンスタイン株式会社の運用戦略や商品は、値動きのある金融商品等を投資対象として運用を行いますので、運用ポートフォリオの運用実績は、組入れられた金融商品等の値動きの変化による影響を受けます。また、金融商品取引業者等と取引を行うため、その業務または財産の状況の変化による影響も受けます。デリバティブ取引を行う場合は、これらの影響により保証金を超過する損失が発生する可能性があります。資産の価値の減少を含むリスクはお客様に帰属します。したがって、元金および利回りのいずれも保証されているものではありません。運用戦略や商品によって投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なります。また、ご投資に伴う運用報酬や保有期間中に間接的にご負担いただく費用、その他費用等及びその合計額も異なりますので、その金額をあらかじめ表示することができません。